ユランシアの書 入門ガイド

最初に知っておきたい5つの概念

『ユランシアの書』は、1955年にアメリカで刊行された全196編の大著です。宇宙の成り立ち、神の本性、人間の運命、そしてイエスの生涯までを、壮大なスケールで語ります。ただ、いきなり読み始めると、聞き慣れない用語の多さに戸惑う方も少なくありません。このガイドは、本文に入る前に押さえておくと理解がぐっと深まる5つの柱を、やさしくまとめたものです。

1 神は「人格をもつ天の父」

『ユランシアの書』は、神を、遠い抽象的な力としてではなく、一人ひとりを知り、愛する「天の父」として描きます。その存在は、父なる神、永遠の御子、無限の霊という三つの位格として現れ、多くの霊的伝統が語ってきた三位一体の理解を、さらに掘り下げています。

2 宇宙には「住所」がある

宇宙は、中心のパラダイスから、七つの超宇宙、そしてその中の無数の地方宇宙へと、整然と階層をなしています。私たちの世界は「ユランシア」と呼ばれ、地方宇宙ネバドンに属する一つの惑星です。物質宇宙はまぼろしではなく、霊的な成長が実際に起こる現実の舞台として扱われます。

3 人間の内に宿る神の断片と「魂」

人間には、神の一部が内に宿るとされ、これは「思考調整者」と呼ばれます。私たちが日々の人生で行う選択を通じて、永遠に続く「魂」が育まれていきます。魂を持つのは人間だけであり、その魂は、この世界での人生のなかで形づくられていきます。

4 輪廻転生はなく、人生は一度きり

スピリチュアルな世界で広く信じられている輪廻転生を、『ユランシアの書』は認めていません。肉体をもつ人生は一度きりです。その後には、いくつもの段階を経て、源へ、そしてパラダイスへと向かう「永遠の旅」が待っているとされます。この考え方は、いまの人生の意味を大きく変えます。

5 ネバドンのミカエルとイエスの生涯

私たちの地方宇宙ネバドンの創造者であるミカエルが、ユランシアでイエスとして生まれ、生き、教えたと説かれます。第四部は、その生涯と教えを詳しく語る、世界でも類を見ない記述です。『ユランシアの書』の核心に、最も早く触れられる部分でもあります。

全体の構成

第一部:中央宇宙と超宇宙 ／ 第二部:地方宇宙 ／ 第三部:ユランシアの歴史 ／ 第四部:イエスの生涯と教え

はじめて読むとき、第四部から入る人も多くいます。宇宙論の用語に慣れる前に、イエスの生涯から入るほうが、この書の温度を感じやすいからです。

ユランシアの旅

エハン・デラヴィと愛知ソニアが、全12回で『ユランシアの書』の核心を案内する講座です。LINE公式アカウント「ユランシア通信」では、講座の最新情報や、理解を深めるための資料をお届けしていきます。

https://urantiabook.jp/